

**製品名: Che-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08752**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	70kDa

**抗原情報**

遺伝子名	AATF
別名	AATF; CHE1; DED; HSPC277; Protein AATF; Apoptosis-antagonizing transcription factor; Rb-binding protein Che-1
遺伝子 ID	26574.0
SwissProt ID	Q9NY61
免疫原	抗血清はヒト AATF 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 10-59

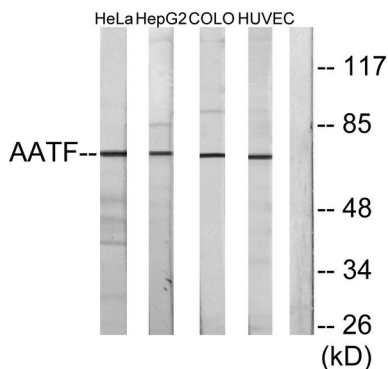
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞のアポトーシス誘導に関与することが知られているタンパク質キナーゼである

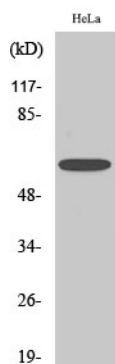
MAP3K12/DLK との相互作用に基づいて同定されました。この遺伝子産物は、転写因子の特徴的なモチーフであるロイシンジッパーを含んでおり、Gal4 DNA 結合ドメインに融合すると強力なトランス活性化活性を示すことが示されました。この遺伝子の過剰発現は、MAP3K12 誘導性アポトーシスを阻害しました。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: ヒストン脱アセチル化酵素 HDAC1 の一般的な阻害剤として機能する可能性があります。RB1 のポケット領域に結合すると、RB1/E2F 複合体から HDAC1 が置換され、E2F 標的遺伝子の活性化と細胞周期の進行が引き起こされます。逆に、CDKN1A プロモーターに結合した SP1 から HDAC1 が置換されると、この CDK 阻害剤の発現が増加し、細胞周期の進行が阻害されます。また、アルツハイマー病 (初老期および老年期認知症) における PAWR を介した異常なアミロイドペプチド産生誘導にも拮抗するが、この現象の分子基盤はこれまで解明されていない。、PTM: G1/S 期移行期に過リン酸化される。、類似性: AATF ファミリーに属する。、サブユニット: PAWR、POLR2J、RB1/RB、RBL1/P107、RBL2/P130、および SP1 に結合する。MAPT にも結合する可能性がある。、組織特異性: 普遍的に発現する。脳、心臓、腎臓、胎盤、胸腺で高発現する。、

## 研究分野

## 画像データ



HeLa 細胞、HepG2 細胞、COLO205 細胞、HUVEC 細胞のライセートを AATF 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



Che-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析